



学校だより

和歌山市立四箇郷小学校

平成29(2017)年度:No.28

2月号 文責/校長:上田 仁

1. 和歌山県学習到達度調査について

(1) 結果の分析と考察のあらまし

①4年生の国語の無回答率が高かった⇒このようなテストの形に慣れていないため ②4・5年生の基礎と活用ともに県平均より低かった⇒ア. 基礎的な内容の習熟に課題がある(*教科それぞれの専門用語が身につけていない, また使うことができない児童が見られる*問題の意図を理解できない児童が見られる) イ. 活用面ではいずれの教科も上位の児童の割合が低い傾向がある(*読みこなせていない, また書きなれていないから*数値や表, グラフを使った問題を苦手としているから*問題や資料等が2段階になり大量となると, よく考えないで簡単に答えてしまうから) ③特に課題が見られるところ: 4年国語(読み物教材以外の学習), 4年算数(わり算, 言語活動面) / 5年国語(敬語, 話し合い活動に関する事項, 資料を利用して書く・まとめて書く), 5年算数(小数の計算, 最小公倍数, 複合図形の求積, 言語活動面), 5年理科(専門用語・名称, 言語活動面, 魚についての理解)

(2) 今後の計画, 取組予定 ー長期的な視点と短期的な取り組みを整理し戦略的に進めていくー

①学力向上を観点・視点にした研究授業を進める ②算数を中心に学年でそろえたノート指導を続ける ③児童や保護者の学習調査に対する意識を変えていく ④生徒指導・学級経営とリンクした学習指導を行う ⑤市や県からの配付・配信されたテスト・問題等を確実に実施する

10月18日(水)に, 4年生(国語・算数)と5年生(国語・算数・理科)で実施した学習調査の結果が学校に届き, 現在, 学年でその復習やふりかえりをしているところです。

5年生は, 6年生になってすぐに全国学力・学習状況調査があるので(4月17日に国・算・理の3教科), 3月にかけてさらにテストや問題に取り組んでもらっています。

以前お伝えしました内容を再掲(再びお知らせ)します。

『全国や県・市とくらべて一喜一憂するのではなく, 四箇郷の子どもたちのことを見ずえて学力向上を図っていかなければなりません。そのためには, ー①計画的に継続的に組織的に取り組むこと ②できない理由を考える前にできることから始めること ③他のクラスや学年に負けない自慢できることを続けることーが必要です。そして保護者の方の目も大切ではないでしょうか。授業や宿題の内容について関心を持つことで, 今いっそう四箇郷の子どもたちの学力が向上すると考えます。それは, わが子のことだけを考えた俗に言うクレームではなく, 正しい意見だと考えます。』

ともにお子様の学力の向上を, ひいては社会を生き抜く力の向上を, 同じ価値観をもちながら目指すことができれば幸いです。